

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四七七号）

霜降 そうこう
十月二十三日

旧慶光院公開

十月半ば、二十四節気は「霜降」を迎えます。霜が初めて降る季節としますが、暖かい伊勢ではまだ霜は早く、秋たけなわの頃となります。

海照ってけふ霜降の山の晴 後藤五子

霜降や陳皮投ぜし湯につかる 吉岡桂六

「海照って」の俳句からは、空気が澄み、山の晴れやかな姿が伝わってきます。そして、「霜降や」の句の「陳皮」はミカンの皮を乾かしたもので、古くから身体を温めたり、爽やかな柑橘の香にリフレッシュしたりするなど、暮らしの中でも様々に使われてきました。霜降の夜ともなるとひんやりとしますから、陳皮の湯でゆつたりとしたいものです。

十一月三日文化の日、内宮前おはらい町では重要文化財の建物の一般公開があります。旧慶光院客殿けいこういんきやくでんといえます。伊勢神宮の式年遷宮しきねんせんぐうは室町時代末、百年以上にわたり中断しました。その際、全国へ出向き、遷宮資金を募り、遷宮の再興を成し遂げた尼僧たちがいました。その尼僧たちの功績を朝廷はたたえ、「慶光院」の称号を与えました。そして、慶光院を冠するお寺が建てられました。江戸時代は、慶光院の尼僧たちを訪ねて、お伊勢参りの賓客ひんきやくがこのお寺を訪れたようです。

今はお寺ではありませんが、客殿が平成十四年に重要文化財指定を受けてからは一般に公開されています。普段は閉じられた御門の扉が開けられ、敷地内に入ると重厚な建物に驚きます。江戸時代初期までさかのぼる「書院造」しゅいんづくりは極めて貴重とされ、庭上からの見学になりますが、上段の間の床の間違棚ちがひだななどの豪華な設えに式年遷宮に大きな足跡を残した慶光院の尼僧たちへの、当時の人々の敬いの気持ち

ちが伝わってきます。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第24回 神恩感謝 日本太鼓祭

日本人は古来、太鼓を打つことで、暮らしの息災と豊穰を神様にお祈りしてきました。
私たちは、その伝統と精神を受け継いで、太鼓のお祭りを神宮の神様に奉納します。
全国各地から集まった太鼓打ちが、日本人のこころのふるさと伊勢の地にて、感謝と畏敬の
想い、そして日々の鍛錬で高めた技で打ち込みます。

日 時／10月24日(土) 10:00 ～ 17:30
25日(日) 10:00 ～ 17:00

場 所／おかげ横丁一帯
入場料／無料

○ 第3回 伊勢おかげ^{う た さい}嬉楽祭

伊勢・おかげ横丁では、神宮の新嘗祭をお祝いし、稔りへの感謝と喜びを込めて神様に捧げ
る「伊勢おかげ嬉楽祭」を開催いたします。秋の澄んだ風が心地よい季節に、伊勢ゆかりの
伝統的な音楽と現代のアーティストが一堂に会し、深まる秋の夜を彩ります。

期 間／11月3日(火・祝)まで 12:00 ～ 20:00
場 所／おかげ横丁一帯・オカゲ屋敷

※雨天および諸事情にて、中止または内容が一部変更になる場合がございます。

お問い合わせ／おかげ横丁 総合案内「おみやげや」 電話 0596-23-8838

五十鈴塾

○ 昔噺の伊勢参り

お伊勢参りにまつわる昔話が全国各地にあることをご存じでしょうか。日本の昔話の中でも浦島太
郎や桃太郎などの有名なものは絵本などになって残っていきませんが、テレビやネットの普及により、
各地の名もなき庶民が伊勢への憧れと共に語り継いだ物語を、もう一度甦らせたい。そんな思いか
ら生まれた講座です。昔話ですから「耳で聞く」。子供の頃の心にもどって楽しんでいただけたら
幸いです。

日 時／10月29日(木) 13:30 ～ 15:00
講 師／山中 一孝 (豆腐庵山中代表取締役)
参加費／一般 1,500円 会員 1,000円
場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

やま にしき
山 の 錦

五十鈴川の上流に位置する神路山は、初秋の影を残しつつ錦おりなす頃と
なりました。三色の餡の茶巾しぼりでその美しさを喻えました。

かしこじま ゆうば
賢島の夕映え

英虞湾が黄金色に染まる夕映えの賢島。羊羹とそばろ餡を交互に流して仕上げ、
その一刻を菓子にとどめました。

はつ しも
初 霜

朝晩の空気が冷たく感じられ、伊勢路にも霜の降り始める時季がめぐって
きました。小豆餡のそばろ生地で黒糖餡を包み蒸し上げ、初霜の降りた
大地を表現しました。